

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



SCG011-13

会場:304

時間:5月25日 11:45-12:00

## 衛星による地震電磁気観測の現状と近年の成果 Present status and results: Satellite observation of seismo-electromagnetics

児玉 哲哉<sup>1\*</sup>

Tetsuya Kodama<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 宇宙航空研究開発機構

<sup>1</sup> Japan Aerospace Exploration Agency

今世紀に入り、ロシアが世界初の地震電磁気観測衛星：Kompass の打上げを実施するなど、様々な国が地震電磁気現象の観測を目的とした衛星を運用及び計画している。

マグニチュード7以上の大地震は、全球で年間平均16回発生しており、衛星を用いれば短期間に大地震とのイベントデータが取得できるため、これが各国で衛星や宇宙ステーションからの観測を実施・計画している大きな理由となっている。

発表では近年の宇宙からの地震電磁気観測の成果と、今後の計画について発表する。

キーワード: 地震電磁気, 電離圏, 電子密度, 電子温度, 衛星, 宇宙ステーション

Keywords: seismo-electromagnetics, ionosphere, electron density, electron temperature, satellite, International Space Station